

“生育調節剤雑感”

欧米先進国の大手化学会社のPGR(植物生育調節剤)に関する最近の研究は、頓に盛んである。各企業の研究部門のトップ達は、異口同音に、「PGRは次の世代の農薬であり、研究開発のリスクは大きい、必ず成功するものと確信している」という。そして主な研究目標を、大豆・トウモロコシ・小麦等の穀類の増収剤においている。PGRの研究は、基礎的分野にもかなりの力をそそいでいる。また組織培養から分子生物学まで駆使しての探索を進めていくと、新規化合物のスクリーニングだけでなく、それと並行して、品種改良の仕事にも手を染めることになるもののようである。化学会社の事業内容に、種苗に関するものが組み込まれる例が結構多い。世界の大穀物産地では、病虫害防除・雑草防除の直接的効果よりも、収量をどれだけあげる技術であるかが、農家の肌にとりく事柄である。このことは、栽培面積の規模の大きさ、穀物の価格動向からして、僅かの収率の変動が、農家収入を大きく左右することを想えば当然であろう。日本の場合、PGRの研究目標は何にすればよいのか難かしい。農家のニーズのベストテンは何々であろうか。そのものを企業側からみて、研究投資に値する市場の大きさが見込めるかどうか、農薬も世界的視野に立っての研究開発が要請されている昨今、PGRの分野は、我が国の農業政策・立地条件からしてまことにアプローチの難かしい分野のように思えてならない。この大きなリスクに耐えて、研究開発に取り組む余裕を持ちたいものである。

〔日本農業株式会社取締役 開発部長 渋谷 正弘〕

目 次 (第14巻第7号)

雑草のデメリット——雑草害以外の デメリット——	2
＜九州農業試験場 高林 実＞	
1. 作物に病害・虫害をもたらす 病原菌・害虫のホストプラン トとしての雑草	2
2. 収穫作業上支障となる雑草	3
3. 飼料畑の雑草	3
4. 芝生の雑草	3
CATの連年使用と土壌微生物につ いて	4
＜全国農業協同組合連合会 西 静雄＞	
昭和54年度冬作(麦類・いぐさ・水 稲刈跡)関係除草剤・生育調節剤試 験成績概要	8
＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞	
外国文献抄録	
1, 3, 4-チアジアゾール-2-イ ル尿素系除草剤	18
新登録除草剤一覧	21
新登録生育調節剤一覧	22
新除草・調節剤	
○グリホセート除草剤	23

表紙の写真は、ケフシグロの種子表皮
細胞を走査電子顕微鏡で撮影したもの、
星状突起型、550倍。

〔写真提供者：笠原安夫氏〕